

2026年（令和八年）

1月16日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（1月8日～14日）の国際石油市場は、米・ベネズエラ間の展開が注目される中、イランでの反政府デモが激化、米国は介入も辞さない状況で、原油市場は堅調に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、8日に続伸の58.86ドルで始まり、5営業日続伸、14日は、62.02ドルで終わった。

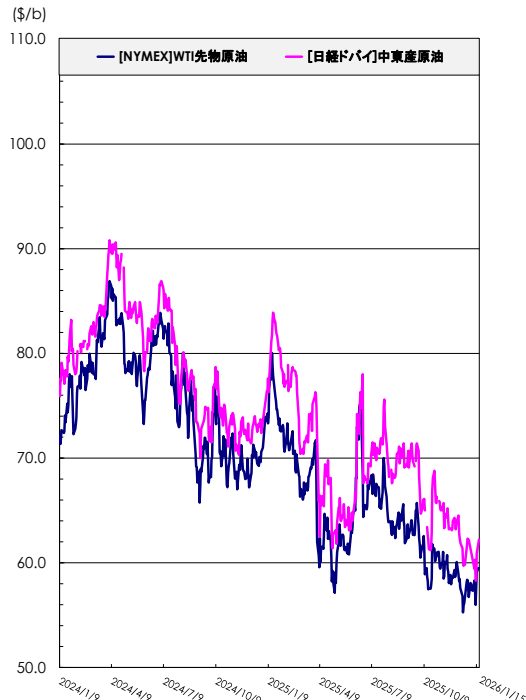
また、中東産ドバイ原油/東京市場（3月渡し）も、前々週・前週（12月25日～1月7日）は58.30～62.20ドルの範囲で推移したが、当週は、1月8日58.30ドル、9日60.90ドル、12日休場、13日62.20ドル、14日62.70ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は、前々週・前週（12月25日～1月7日）155.92～157.29円の範囲で推移したが、当週は、1月8日156.85円、9日157.14円、12日休場、13日159.26円、14日159.26円だった。

そのような中で、1月13日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.6円安、軽油も同0.5円安、灯油は同5円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は155.1円だった。

ガソリンの補助金は、12月31日、旧暫定税率の廃止と同時に廃止された。引き続き、軽油は17.1円、灯油・重油は5.0円の補助金が支給されている。

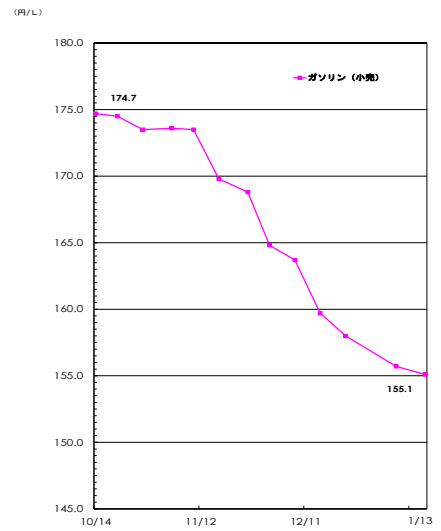
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量（千kl）	1/4～1/10	3,127 ▲41	▲—
	トッパー稼働率（%）	"	90.3 ▲1.1	▲—
	原油在庫量（千kl）	1/10	9,986 ▼-368	▲—
価格	中東産原油（日経ドバイ）（\$/ bbl）	1/13	62.20 ▲2.80	▼-19.0
	WTI先物原油（NYMEX）（\$/ bbl）	1/12	59.50 ▲1.18	▼-19.3
	原油CIF単価（\$/ bbl）	12月中旬	69.26 ▼-0.34	▼-7.31
	①原油CIF単価（¥/ kl）	"	67,851 ▼-506	▼-5,576
	②ドル換算レート（¥/\$）	"	155.76 ▲0.37	▼-3.30
	外国為替TTSレート（¥/\$）	1/13	159.28 ▼-0.99	▼-0.71



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	1/10	1,682	▼ -14	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 1/6 ~ 1/12	77.0	▲ 5.0	▼ -6.0
		(TOCOM/中部)	1/9	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	1/13	▼ -0.6	▼ -25.6

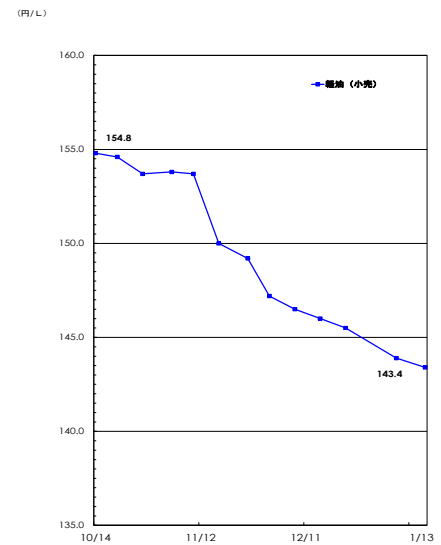
※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

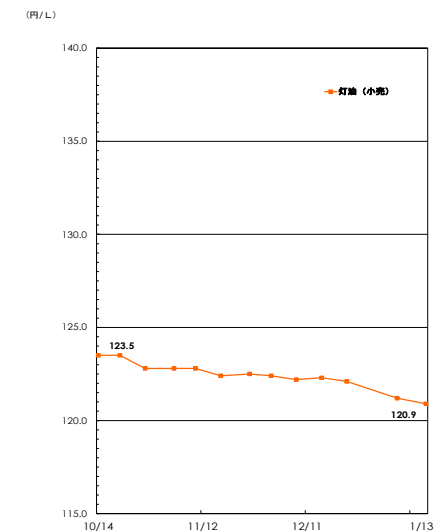
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	1/10	1,633	▼ -12	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 1/6 ~ 1/12	69.6	▼ -1.8	▼ -17.4
		(TOCOM/中部)	1/9	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	1/13	▼ -0.5	▼ -16.9

※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	1/10	2,071	▼ -156	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 1/6 ~ 1/12	86.0	➡ 0.0	▲ 2.0
		(TOCOM/中部)	1/9	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	1/13	▼ -0.3	▼ -1.7



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(12月25日～1月7日)のNYMEX・WTI先物市場は、55.99～58.32ドルの範囲で推移した。

当週1月8日は、前日カリブ海でベネズエラ関連タンカーを拿捕、また、米国では、ロシアへのウクライナ停戦圧力として、ロシアと石油取引を行う国について追加関税を500%賦課できる法案を検討中との報道があり、さらに、イランでは反政府運動が激化する中、ペデシュキアン大統領が売り惜しみ禁止等経済統制を強化し、世界的に緊張が高まり、3日ぶりに反発した。2月物終値は1.77ドル高の58.86ドル。

週末1月9日も、イランでは前日SNSが遮断、反政府デモへの弾圧が強化され、また、ロシア黒海沿岸では石油施設へのドローン攻撃が続くなど、引き続き、緊張は拡大しており、続伸した。2月物終値は前営業日比1.36ドル高の59.12ドル。

週明け12日は、前週末高値を受けて、利益確定売りの優勢で始まったが、イランでは、政府の反政府勢力弾圧が強まり、今週中にもロシア原油取引国への500%の追加関税賦課法案が通過するとの見通しが高まっており、3営業日続伸した。トランプ大統領は、9日石油企業幹部をホワイトハウスに招き、ベネズエラの石油施設再建への投資を呼びかけたが、大きな動きは見られない。直近の2月物終値は0.38ドル高の

59.50ドル。

13日は、トランプ大統領はイランへの軍事介入を否定しない中、イラン反政府運動の死者は2千人に達した、さらに、大統領特使が、米国亡命中のイラン元皇太子のレザパーレビ氏と内々に面会したとの報道もあり、一段と緊張が高まり、4営業日続伸した。2月物終値は1.65ドル高の61.15ドル。

14日は、中東の大産油国イランをめぐる緊張が高まる中、トランプ大統領は、イラン政府による反政府勢力の殺害は止まっていると発言、また、ベネズエラでは、米国監視下で、国営石油会社PDVSAが石油貿易の業務を再開したとの報道があり、この日発表の米国石油在庫は前週比で予想を上回る積み増し報告はあったものの、5営業日続伸した。2月物終値は0.87ドル高62.02ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)が1月14日に発表した9日現在の米国在庫週報は、原油在庫が前週比340万バレル増と市場予想(170万バレル減)に反する積み増し、ガソリンは同900万バレル増と市場予想(360万バレル増)を上回る積み増しで、需給緩和感は拡大した。

また、EIAによると、1月12日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.7セント安の1ガロン2.779ドル(116.0円/ℓ)と8週連続の値下がり、ディーゼル小売価格も、前週セント比1.8セント安の3.459ドル(144.3円/ℓ)と8週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、1月9日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比3基減の409基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、1月4日～1月10日に休止したトッパ能力は3.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は312.7万klと、前週に比べ4.1万kl増加。前年に対しては21.7万klの増加。トッパ稼働率は90.3%と前週に対して1.1ポイントの増加、前年に対しては6.3ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

1月10日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油、軽油、A重油は取り崩し、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは168.2万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては16.8万kl少ない。

灯油は207.1万kl、前週差15.6万kl減。前年に対しては1.7万kl少ない。

軽油は163.3万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては1.0万kl多い。

A重油は79.6万kl、前週差1.8万kl減。前年に対しては3.1万kl多い。

C重油は179.8万kl、前週差3.4万kl増。前年に対しては8.0万kl多い。

(単位：千kl)

	今週 (1/10)	前週 (1/3)	前週比
ガソリン	1,682	1,696	▼ -14 (-1%)
ジェット燃料	746	778	▼ -32 (-4%)
灯油	2,071	2,227	▼ -156 (-7%)
軽油	1,633	1,645	▼ -12 (-1%)
A重油	796	814	▼ -18 (-2%)
C重油	1,798	1,764	▲ 34 (2%)
合 計	8,726	8,924	▼ -198 (-2.2%)

5 国内/元売会社製品卸価格

1月6日～12日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートはわずかに円安であったが、1月15日から元売会社の卸建値はわずかに値下げだったものと見られる。

さらに、12月31日、揮発油の補助金は、旧暫定税率(現：当分の間税率)と同時に廃止となった。他の補助金は、軽油が17.1円、灯油・重油が5円で据え置きだった。

6 国内/製品小売価格

1月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円安の155.1円、軽油も同0.5円安の143.4円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで同5円安の2,176円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでは同0.3円安の120.9円)。ガソリンは9週連続の値下がり、軽油も9週連続の値下がり、灯油も3週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは9県、横ばいは2県、値下がりが36都道府県だった。全国最安値は愛知県の147.3円、その次は埼玉県の148.0円であった。他方、最高値は鹿児島県の165.4円。最も値上がりしたのは神奈川県(前週比0.625円安)、最も値下がりは鹿児島県(同2.5円安)だった。

次回調査時(1/19)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]		今週 (1/13)	前週 (1/5)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	155.1	155.7	▼ -0.6	2023/9/4 2025/4/14	186.5
	灯油	120.9	121.2	▼ -0.3	08/8/11	132.1
	軽油	143.4	143.9	▼ -0.5	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第41号) の公表は、1/23 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange:NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate:中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。